

11. 高木レクチャーについて

第 25 回高木レクチャー (2025 年 10 月, 東京) の報告と第 26 回高木レクチャー (2026 年 6 月) の予定をお知らせいたします。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、卓越した数学者を日本に招聘し、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。講演は専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象として行われます。高木レクチャーをもとに書き下ろした研究総説は、講演の当日に「高木ブックレット」として配布され、その後、加筆修正された原稿は査読を経て *Japanese Journal of Mathematics (JJM)* に掲載されることになっています。この趣旨に基づいた「高木レクチャー」の創設が 2006 年 3 月 26 日 (日), 日本数学会評議員会で承認され、2006 年 11 月に第 1 回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されました。

高木レクチャーはコロナ禍でしばらく延期した後、第 25 回高木レクチャーが以下のように開催されました。

日時：2025 年 10 月 18 日 (土) - 19 日 (日)

場所：東京大学大学院数理科学研究科

講演者：

- Noga Alon (Princeton University)
“Graph-Codes: Problems, Results and Methods”
(グラフ符号の理論：問いと結果と手法)
- Fanny Kassel (Institut des Hautes Études Scientifiques)
“Discrete Subgroups of Lie Groups and Proper Actions”
(リー群の離散部分群と固有な作用)
- W. Hugh Woodin (Harvard University)
Lecture 1: “The AD+ Duality Program”
(AD+双対性プログラム)
Lecture 2: “The HOD Conjecture and the Ultimate-L Conjecture”
(HOD 予想と Ultimate-L 予想)

主催：日本数学会

東京大学大学院数理科学研究科

協力：Japanese Journal of Mathematics

日仏数学連携拠点

組織委員：小野薫, 河東泰之, 熊谷隆,
小林俊行, 斎藤毅, 中島啓

高木レクチャーの当日には、予稿の「高木ブックレット」(v+154 頁) が配布され、それぞれ 1 時間×2 回の講演が行われました。参加者は 150 人を超える盛況となりました。

高木レクチャーの講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ、web 上で一般公開する予定です。

次回の第 26 回高木レクチャーは、

日時：2026 年 6 月 6 日 (土) - 7 日 (日)

場所：京都大学数理解析研究所

講演者：

- Kai Behrend (University of British Columbia)
- Bhargav Bhatt (Institute for Advanced Study & Princeton University)
- Ana Caraiani (Imperial College London)

主催：日本数学会

京都大学数理解析研究所

の予定で開催いたします。

最新情報は高木レクチャーの HP

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/>

takagi_jp/

をご覧ください。

2006 年に創刊された *Japanese Journal of Mathematics (JJM) 3rd Series* は、「新しい創造を引き起こすような研究総説論文」を掲載するジャーナルです。この趣旨に沿ったご投稿を歓迎しております。

JJM のホームページ

<https://www.mathsoc.jp/JJM/>

では、最新の情報とともに、JJM 3rd Series にアクセプトされた概説論文のアブストラクトを英語と日本語で掲載しています。

(小林俊行 記)